
グリーン建築フォーラム第14回シンポジウム
2050年カーボンニュートラルに向けた建築分野の挑戦
～ ライフサイクルカーボンマイナス住宅・建築物の普及加速を～

日時：2021年2月10日（水）13:30-16:30
開催方法：Zoomによるウェビナー方式
主催：グリーン建築フォーラム(GBF)、(一財)建築環境・省エネルギー機構
共催：(一社)日本サステナブル建築協会
参加費：無料 定員：400名

主旨：2020年10月の「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」とした菅義偉首相の所信表明演説に続き、11月には衆議院および参議院において「気候非常事態宣言」決議案が全会一致で可決されました。2050年の脱炭素社会の実現のためには、建築分野においては、省エネ・再エネによる運用段階のカーボンゼロにとどまらず、新築・改修・廃棄段階を含むライフサイクルカーボンニュートラルに向けた取り組みの加速が求められます。これまで2008年には、建築環境総合性能評価システムCASBEEへのLCCO₂表示が導入され、国土交通省のサステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)の補助要件にCASBEEが採用され、2012年にはLCCM住宅認定制度も始まりました。脱炭素社会実現のために、建築分野における課題、必要な政策、インセンティブなどについて議論します。

プログラム概要： ※今後変更することがあります

司会：吉野博氏（東北大学名誉教授） 副司会：西田裕子氏（(公財)自然エネルギー財団シニアマネージャー）

■ 開会挨拶：村上周三氏（(一財)建築環境・省エネルギー機構 理事長、グリーン建築フォーラム代表）

■ 基調講演：2050年建築分野のカーボンニュートラルに向けた制度的枠組み（20分×2）

- 1) 国土交通省の取り組みと今後の方向性 村上慶裕氏（国土交通省住宅局住宅生産課建築環境企画室長）
- 2) 建物の脱炭素計画におけるライフサイクルCO₂の視点 伊香賀俊治氏（慶應義塾大学教授）

■ 講演1部：いずれも仮題（15分×3）

- 1) パリ協定1.5°C目標に向けた企業の気候変動への取り組み SBTの視点から 森澤充世氏（GDP ジャパン代表）
※SBT: Science Based Targets
- 2) 2050年脱炭素社会における建築分野の課題 ～RE100、EV100SBT、EP100に対応した建築の国際動向～
下田吉之氏（大阪大学大学院教授）
- 3) つくばLCCM住宅の設計と検証を踏まえた普及への課題
小泉雅生氏（東京都立大学教授）・桑沢保夫氏（国土技術政策総合研究所住宅研究部住宅性能研究官）

□ 休憩

■ 講演2部：いずれも仮題（10分×3）

- 1) 地域工務店のライフサイクルCO₂ゼロ住宅事例 小山貴史氏（エコワークス株式会社代表取締役社長）
- 2) 不動産会社の2050年CO₂排出量ネットゼロに向けた取り組み（調整中）
- 3) ライフサイクルCO₂ゼロチャレンジ（建築以外）（調整中）

■ パネルディスカッション 司会：伊香賀俊治氏（前出）

パネラー：講演1部、講演2部の講演者

■ 閉会の挨拶：村上周三氏（前出）

■ お申込み先 URL・QRコード；https://zoom.us/webinar/register/WN_8X9sPX0zTlq_UZx_K_1f1g

■ オンラインシンポジウム（ウェビナー）についてのご注意

- ・今回は「Zoom ウェビナー」を使用したオンラインシンポジウムです。
 - ・登録申込にあたっては、Zoom ウェビナーの登録システムを使用しております。ご了承ください。
- *****

シンポジウムについてのお問い合わせ先

一般財団法人建築環境・省エネルギー機構（IBEC）建築環境部（グリーン建築フォーラム担当）

e-mail: greenbf@ibec.or.jp TEL 03-3222-6690

